



南魚沼市民病院

平成 28 年 夏号

認知症疾患医療センターだより

理念

私たちは、自然のうるおいの中で、人それぞれの、希望に満ちたくらしを支え、地域医療を推進します。

基本方針

1. 市民の安全・安心を支える医療を提供します。
2. 患者さん中心のチーム医療を推進します。
3. 健康増進を目指し、予防医療の充実を図ります。
4. 確かな知識と技術を有する心豊かな医療人を育成します。
5. 良質な医療を継続するため、経営の健全化に努めます。



ようやく今年度の第一号の便りができあがりました。ご一読いただきますようお願いいたします。今年の予報では7月までは曇りや雨の日が多く、8月は晴れる日が多くなるそうです。熱中症が急増するのは7月。日中の炎天下だけではなく、室内でも、夜でも多く発生しています。特にお年寄りには積極的に声をかけていきたいものです。



講演会 「私らしい老い支度」 ～フレイル予防から終活まで～ を開催します

長生きをするかも知れない ⇒ 認知症になるかも知れない
⇒ ならば、「介護され上手」の準備をしておこう！
⇒ 誰かのために学ぶのではなく **自分のために**！

昨年夏、「自分らしい生き方・逝き方」～介護され上手の準備～ のテーマで好評の講師が今年内容はバージョンアップしてお話します。

日時 平成 28 年 11 月 5 日 (土)
午後 2 時～4 時 (受付 1:30)
会場 コミュニティホール さわらび



講師 (財)長寿社会開発センター 石黒秀喜氏

認知症の治療薬について



認知症の治療薬はどれも同じだと思っていませんか。みなさんそれぞれに個性があるように、治療薬の効き具合や薬との相性は人それぞれです。ご本人に合った治療薬を選ぶことができれば、病気の進行が緩やかになり、ご本人が笑顔で過ごせる時間が増えて介護負担を減少させる効果が期待できます。

1. さまざまなアルツハイマー型認知症治療薬

* 2種類（4剤）の認知症治療薬

現在、認知症の根本的な治療薬はありません。わが国で使用されているアルツハイマー型認知症の治療薬は4剤あります。脳の中でどのように働くかによってコリンエステラーゼ阻害剤（3剤）とNMDA受容体拮抗薬（1剤）の2種類に分けられます。

* 認知症治療薬の働き

コリンエステラーゼ阻害剤	NMDA（N-メチル-D-アスパラギン）受容体拮抗薬
認知症になると、脳の中の神経伝達物質（アセチルコリン）の活性が下がることで、情報を伝達する働きが低下します。アセチルコリンを分解してしまう「コリンエステラーゼ」を阻害することで、脳内のアセチルコリンの活性を上昇させます。	神経伝達物質（グルタミン酸）が過剰に働くことで、記憶の情報の伝達が混乱し神経細胞が障害を受けます。グルタミン酸が作用するNMDA受容体をブロックすることで、脳内のグルタミン酸の活性化を正常化します。
アリセプト®（ドネペジル） レミニール®（ガランタミン） イクセロン®／リバスタッチ®（リバスタチグミン） 	メマリー®（メマンチン） 

2. ご本人に合った薬の形（剤形）



* 認知症治療薬の2つの剤形 —飲み薬と貼り薬—

認知症治療薬には、飲み薬（経口剤）と貼り薬（パッチ）があります。ご本人やご家族が治療を続けやすい薬の形（剤形）を選ぶことが大切です。



*ご本人の暮らし方や介護環境で使い分ける

認知症治療でもっとも大切なことは**治療を継続すること**です。独居や老老介護（高齢者同士の介護）、認認介護（認知症の方同士の介護）の世帯では、薬の管理は容易ではありません。管理しやすい剤形を選ぶことも大切なポイントです。

* 訪問薬剤管理指導について

薬局では、患者さんのご自宅等に訪問し、正しい服薬方法をアドバイスしたり、お薬の適切な管理を導く“訪問薬剤管理指導”を行っています。かかりつけの薬局に相談してみましょう。

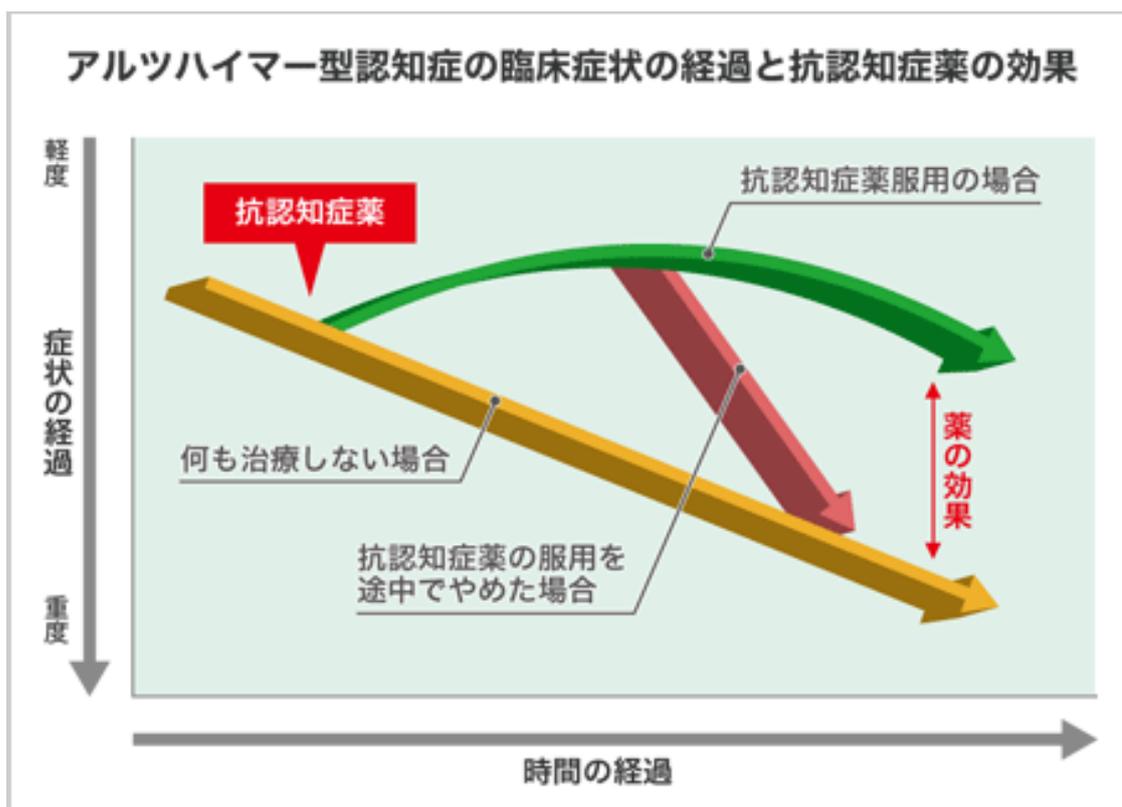


3. 治療薬の効果と副作用

* 治療薬の効果

現在の認知症治療薬には、認知症の進行を抑える効果が期待できます。

認知症治療を早期に開始した場合、治療しなかった場合に比べて症状の進み具合を遅らせることができ、「ご本人らしく過ごすことができる時間」が長くなります。



* 「目に見える」効果に注目しよう

高血圧症や糖尿病の場合、血圧や血糖を測ることで治療薬の効果を数値で確認できますが、認知症の場合にはそうはいきません。でも、治療の開始時や薬の変更時には、薬の効果として次のような変化が見られることがあります。

表情が豊かになる
笑顔が増える

料理の段取りが
よくなる

積極的に散歩に
行くようになる

自分で身の回りの
ことができるよう
になる



イライラが
減る

新聞を読む
ようになる



おっくうでやらな
かったことをやる
ようになる

同じものを買って
しまう頻度が減る



*** 起こりやすい副作用と対処** 主治医の先生に相談しましょう

同じ薬を使っても、現れる効果や副作用の程度は人によって異なります。これはその方の持って生まれた「体質」が影響していると考えられています。ですから、**効果が不十分だ**と思ったり、**副作用が出ていたり**する場合には、**主治医の先生に相談してみる**とご本人に合った薬が見つかる可能性があります。

	コリンエステラーゼ阻害剤	NMDA 受容体拮抗薬	
副作用	消化器症状（吐き気、ムカつき） 易怒性（怒りっぽさ、イライラ感） めまい・ふらつき 	皮膚症状（かゆみ、赤み、かぶれ） 	活動性の低下 
対処法	薬の減量・変更	保湿剤によるスキンケア 薬の減量・変更	薬の減量・変更

認知症の相談はお気軽に



受診前相談のご案内

認知症のような症状があっても、ご本人が拒否されると受診が難しい場合があります。そのような場合、「受診前相談」といって、受診の前にご家族だけで来院していただくことで心配や困りごとを伺い受診のすすめ方や対応のしかたなどを一緒に考えていくことができます。認知症専門の相談員が対応いたします。

相談申し込み方法

まずは、お電話でご連絡ください
 認知症疾患医療センター 代表 025 (788) 1222
 専用 025 (772) 2604

相談場所

南魚沼市民病院 相談室

相談日時

月～金曜日（祝日・第3月除く）9時～17時
 土曜日 9時～12時

相談費用

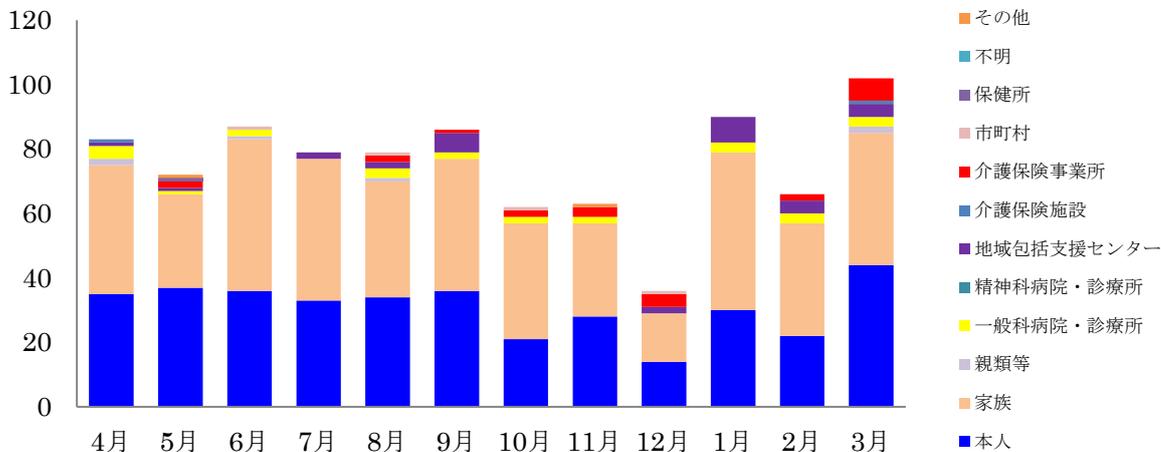
電話相談および
 受診前相談は無料

面接相談： 30分以内 2000円（税込）
 30～60分 3000円（税込）
 60分以上 5000円（税込）

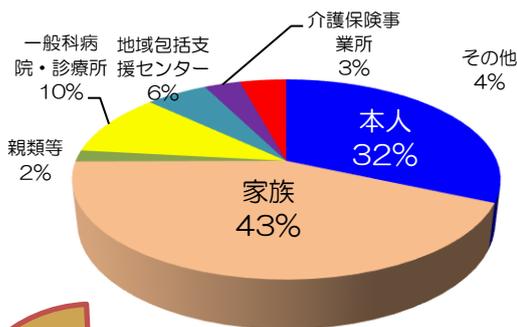
平成 27 年度の実績報告

1. 相談の状況

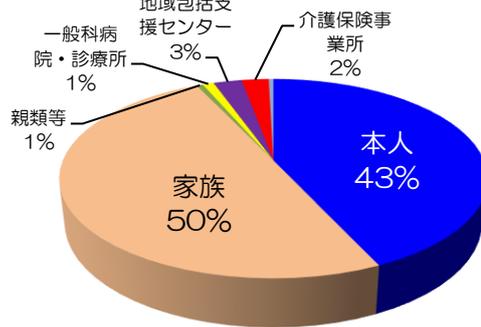
相談者と相談件数



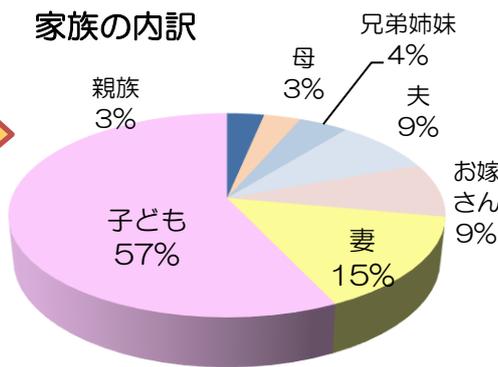
最初の相談者（新患）



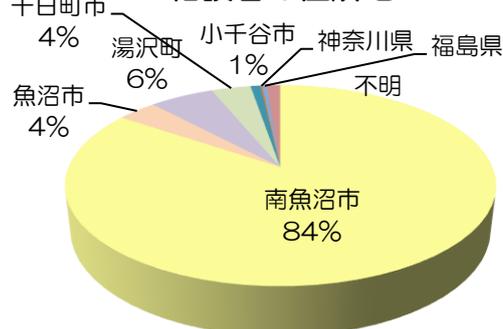
相談者（再来）



家族の内訳

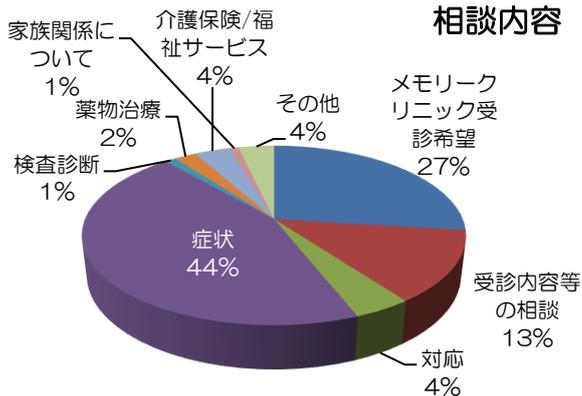


相談者の住所地



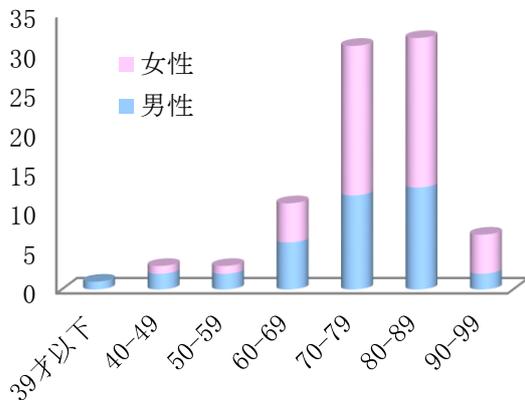
- ◇ 相談者数は延べ 915 人で昨年の 1.2 倍でした。
- ◇ 最初の相談者はご家族が 43%、ご本人が 32%（昨年 20%）で本人自身の相談が増加傾向にあります。
- ◇ ご家族ではお子さん、奥さんが全体の約 7 割を占めています。
- ◇ 12 月は病院の移転で減少しました。例年冬季の相談が多い状況です。
- ◇ 相談内容は症状の相談、次いでメモリークリニック受診希望の相談が多くなっています。

相談内容

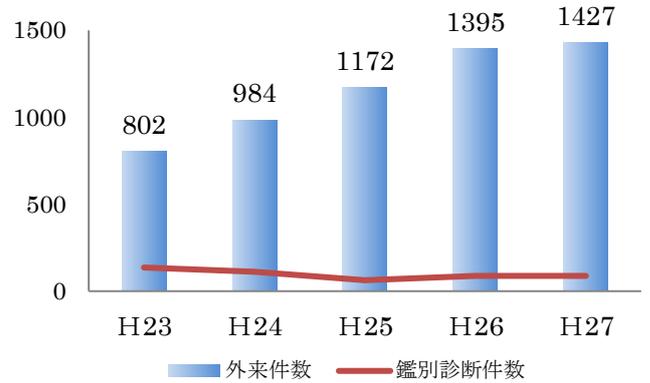


2. メモリークリニックの状況

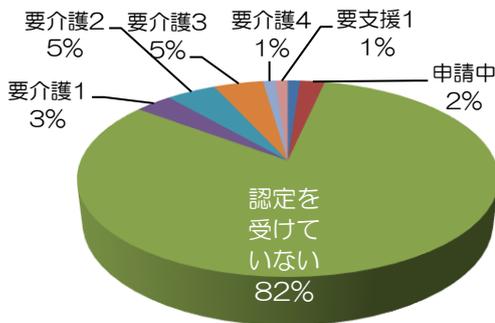
初診者の状況



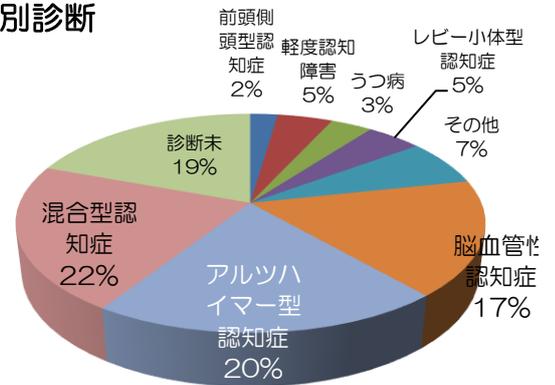
メモリークリニック外来患者数



要介護認定

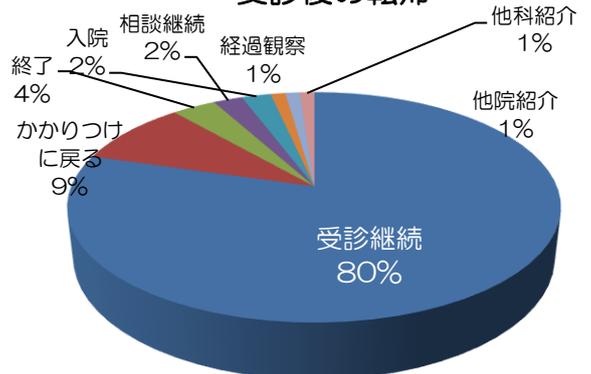


鑑別診断



- ◇ メモリークリニック受診者数は延べ 1427 人で、年々増加しています。
- ◇ 初診者は女性が男性より多く、平均年齢は 79.3 才でした。年代では 80~84 才が最も多くなっています。
- ◇ 鑑別診断では混合型認知症 22%、アルツハイマー型認知症 20%、認知症以外(うつ・不安神経症・発達障害・せん妄など)は 8%でした。
- ◇ 受診者の 82%は介護保険(要介護認定)を受けていませんでした。

受診後の転帰



南魚沼市民病院認知症疾患医療センター

〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町 2643 番地 1

電話: 025-788-1222 (代表)

電話: 025-772-2604 (直通)

FAX: 025-772-2603